

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2020/8/31
所属学部・ 研究科・学府	国際教養学部
所属学科・専攻	国際教養学科・グローバルスタディーズ

1. 留学先について

留学先大学名	オストラバ大学							
留学先所属学部等	Faculty of Art							
留学期間	出発日	2020/2/2	入学日	2020/2/3	修了日	2020/6/26	帰国日	2020/3/26
住居	<input type="radio"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="checkbox"/> 民間アパート	<input type="checkbox"/> その他()					
	通学時間	約10分					On campus	
	通学方法	寮から徒歩1分のバス停からバスに10分乗り、大学目の前のバス停で降りる						
	居室スペース	<input type="checkbox"/> 個室	(3)	<input type="checkbox"/> 人部屋	<input type="checkbox"/> その他()			
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input type="checkbox"/> キッチン	<input type="checkbox"/> トイレ	<input type="checkbox"/> バス	<input type="checkbox"/> リビング	<input type="checkbox"/> その他部屋・ラン)	
食事	自炊	80 %	学食	%	外食	20 %	その他	() %
保険	海外旅行保険(名称)	ジェイアイ傷害火災保険 tabihoたびほ						
	派遣先大学指定の保険(名称)	MAXIMA pojistovna a.s.					<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入	
	その他	(上記の指定保険はビザ取得の際に必須の条件を満たす為に加入した保険です。)						
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウイスコンシン(電車)							
	成田 ⇄		プラハ(飛行機)			⇄ オストラバ(電車)		

2. 留学にかかった費用について

総費用	443,720 円							
出どころ								
自費	貯金	15万 円	アルバイト	5万 円	その他	円		
援助	両親	30万 円	家族・親戚	5万 円	その他	円		
奨学金	JASSO	35万 円	その他名称()	円				
その他	その他()	円						

2-1. 財政管理の方法

渡航時	現金	3万 円	その他()	円
留学中	海外送金	キャッシング	その他(ビットカードのiD決済と初めに持参した現金のi)	

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	図書館のコピー機以外はiD決済機能のついたクレジットカード
住居にかかった費用	iD決済機能付きのクレジットカード
その他	市内のバスやトラムの料金はトランスポーターカードを作成して乗り降り時にタッチで支払い

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			146,000	円
海外旅行保険			111,500	円
OSSMA			16,500	円
査証・在留許可証			5,670	円
住居	czk	4,500	21,150	円
食費			40,000	円
通学に要する交通費			6,000	円
教科書、教材費	czk	440	2,000	円
その他大学に支払った経費	czk	250	1,200	円
光熱費			0	円
その他 (SIMカード)	czk	3,000	14,000	円
その他 (予防接種)			7,700	円
その他 (の郵送料, 残高)			16,000	円
その他 (キャリーバック)			56,000	円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無			
			○	有	○	無
1 Language Games in Teaching English	正規	5	○	有		無
2 English for Tourism	正規	5		有	○	無
3 British Studies	正規	3		有	○	無
4 Czech for Foreigners1	正規	4	○	有		無
5 Limits of Development in China and India	正規	6	○	有		無
6				有		無
7				有		無
8				有		無
9				有		無
10				有		無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

渡航前に留学先予定の学部コーディネーターから送られてきたページから、開講予定科目の検索が出来、シラバスを確認することが出来るためそこで履修計画をしておく。渡航後は、直接コーディネーターに履修科目を伝える行き、履修登録をして貰う。

3-2. 授業内容、方法に関して

授業は、日本と同じように講義室で教員一人に対し生徒が複数人いる体制である。プレゼンテーションやグループワーク、ディスカッションやゲームなどのアクティブラーニングが多いように感じた。一つの授業時間が90分とは限らず、2コマ連続で開講され、授業内で休憩時間を設ける科目もあった。メモを取るというよりも、今考えた事を発言する機会が多く授業時間があつという間に過ぎるように感じていたことが印象的である。

3-3. 語学力について

渡航前の語学力は英語も日常会話や簡単な語を交えての学術的な会話、程度しか話せず不安であったが、寮での留学生同士の会話の中で耳や脳が次第に慣れていったことで授業内での理解度が深まった事を感じた。

さらに、帰国後のオンライン授業の受講を継続している中で英語を使用する機会や聴く機会があり、帰国後も上達を感じる事ができた。チェコ語に関しては、渡航前はほとんど全くわからない状態であったが、チェコ語の授業を受けたり街で見聞きする中で理解と上達が深まったと感じる。学びながら使用する場面が多く、特に発音やリスニングに関して非常に良い環境にあったと思う。

3-4. 図書館など学内施設について

学部棟に併設する図書館をコピー機を使用するために利用したことがあるが、学生証を提示した上で司書に現金で支払う必要がある。

3-5. その他

4. 生活面

4-1. 住居について

学生寮ではロビーに飲み物やサンドイッチなどの軽食の自販機がある。洗濯機の数も留学生全体で二台と限られており、早朝にはランドリールームの鍵の争奪戦が起こる。共用のキッチンも昼ごはんや夕ご飯の時間になると混雑する。私の部屋があった棟にはwi-fi環境があったが、もう一つの棟にはない。部屋は3人部屋で7畳程度である為、少々狭く、勉強机はあるものの使用していると動線を塞ぐことになる為部屋での自主学習は、ルームメイトがいる時にはしづらい。しかし、スタディールームがある為そこでは集中して学習している留学生たちがいる他、設置されているパソコンも使用可能である。共用トイレとシャワーームは別々であるが併設しており、シャワーは各フロアに3つずつしかない為、混雑することがある。

4-2. 食生活について

主に自炊。寮のすぐ隣や大学の近くにスーパーマーケットがあり、そこで放課後などに食材を購入して共同キッチンで調理して食べていた。昼ごはんも寮と大学が近い為、一時的に帰宅して昼ごはんを食べることが多かった。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

キャンパスと寮のロビーにはwi-fiが完備されているが、寮の部屋に関しては二棟あるうちの片方のみwi-fi環境があった。携帯電話は、留学生の多くは現地のVodafoneショップでSIMカードを購入し、月額で支払いをしていた。

4-4. 服装について

服装は基本的に自由で、留学生も各々の文化や嗜好に基づいたファッションを楽しんでいた。

4-5. 健康管理について

寒い時期は暖かくして、部屋のこまめな換気を心がけた。早寝早起きと十分な睡眠時間の確保に努めた。食事の栄養バランスにも気をつけた。事前にも予防接種(A型肝炎)をしておいたが、病院の先生に水質の問題から生野菜を避けるようにと言われていた為、加熱調理をするように心がけた。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

特に利用する場面はなかったが、定期的な安否確認があり安心だった。

4-7. 課外活動について

週末にチェコ第二の都市と呼ばれるブルノに行き、歴史的な名所を巡り、チェコや欧州の歴史を学んだほか、首都プラハではカレル橋やプラハ城や天文台などに赴き、更にミュシャ美術館でチェコ出身の芸術家の作品を観た。東欧料理のレストランやチェコ料理のレストランでチェコの伝統料理や地ビールを飲んだりして現地での経験を有意義なものとするよう試みた。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

近隣の大学の留学生との毎週開催されている大学生主体のクラブのイベントなどで知り合うことがあり、放課後や週末に近くのショッピングモールや公園で食事を取ったりと交流を深める機会があった。

4-9. 日本から持参してよかったもの

冬に渡航した為、のど飴や就寝時用のマスク、常備薬が健康管理に非常に役に立ったと感じる。その他ヒートテックのレギンス、カイロ、化粧水や洗顔料など顔に直接触れるもの。抹茶チョコなどの日本テイストのお菓子を持って行くと留学生や現地学生に喜ばれたので良かった。また、欧州において両替しやすいということでユーロを持ち歩いていたが、小さなショッピングモールでも窓口でチェコルナに換金できるので急遽現金支払いが必要になった時に助かった。その他洗濯用ネットやハンガー、ドライヤー、ヘアゴムや髪留めなど。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

シャンプー、ボディソープ、衛生用品。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

チェコは日本やその他の国よりも物価が安い為、チェコの商品は安い、という会話が留学生同士でも飛び交いがちであるが、現地学生からすると、そのような会話を不快に感じる場合もある為、失礼にならないように気をつける必要があると感じた。寮のルームメイトのムスリムの学生がいた事もあり、宗教的な文化の違いを尊重し合う必要があると感じた。さらにその他のルームメイトの学生がいたが、恋人と共に留学しており、恋人を女性部屋に連れていたり、日本よりもスキンシップの度合いも高く、一緒に生活する上での困難を感じる場面があった。チェコ人に関しては、レストランやスーパーでも挨拶を交わす機会が多くあり、気さくで挨拶に対し礼儀正しい印象を受けた。さらに、コロナウイルスの影響でスーパーマーケットの営業時間が制限された際、高齢者に優先的に買い物をさせる規則が出来たりと、高齢者に対する敬意を感じる国であった。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

プラハやブルノなどチェコ国内の有名な都市に赴き、観光を兼ねて留学生同士で週末に小旅行をした。

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

新型コロナウイルスの影響により、大学が休みになってしまった期間があり、外出も交通機関を使用しないような散歩は認められていたため、大学の近くのオストラバ川まで寮から散歩して川辺のベンチで日記を書いたりした。

ショッピングモールやその他飲食店(イトイン)が封鎖されるまでは、放課後や空きコマにカフェで勉強したり友人達とお喋りをしたりと息抜きと交流を兼ねていた。

寮のジムの中で友人とダンスをして体を動かしたり、ピアノルームでピアノを弾いたりした。基本的に食事は自炊であるが、寮の学生複数人で一品持ち寄りパーティーを頻繁にして自粛期間も楽しいものになるようにしていた。

5. その他

5-1. 留学先大学について

学部毎に街の至るところに学部棟が建っている為、授業によって建物が違う場合がある。(基本的に在籍している学部棟での授業を受ける機会が多かった。)その為、初めのうちは講義室にたどり着くためにその他の留学生や現地学生などの助けを受けながら場所を覚えていく必要がある。それぞれの学部棟にはWi-Fiが完備されており、ネットを使用することが出来るが教室の位置によっては接続が悪いことがある。

学生寮からはどの棟にもバスで通いやすかった。教員は親切で気さくな方が多く、授業に関して不安な事を相談しやすく、授業中の発言もやすいものであった。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

ビザの申請の必要書類の作成の過程で、チェコ語翻訳を自分自身で依頼した上で外務省でのアポストリーユ認証を取得しないとイケない、また無犯罪証明書を求められる、など実際に在日本チェコ共和国大使館に申請に赴くまでに時間がかかる為、派遣が決定した段階から申請の準備を開始することをお勧めします。ネットでは申請後1ヶ月ほどで受け取れるという情報も見かけますが、私の時は2ヶ月以上かかりましたのでその点もお気をつけ下さい。

チェコ滞在中は、街中にチェコ語が溢れている割に、慣れてくると安心して生活できるので盗難などの被害に遭わぬよう注意していればオストラバは自然も人も良い街でしたので楽しめると思います。

5-3. 留学を終えて

本来予定していた留学期間が5ヶ月だったのですが、新型コロナウイルスの世界的流行が原因で、予定より3ヶ月早く帰国することとなりました。春休みの2ヶ月間だけの滞在になり、帰国が決まった時には無念でやりきれない気持ちもありました。帰国後もオンラインで留学を継続することが可能だったものの、こんなもので留学と言えるのか、という気持ちもありました。しかし、日本からチェコに留学しているその他の学生のほとんどが帰国後のオンライン留学を許可して貰っていませんでした。その点において、千葉大学は非常に寛大であり私が恵まれていることに気付かされ、その他の日本人留学生の分も、機会が与えられている身として頑張りたい、と気持ちを切り替えることができました。帰国後の3ヶ月は、他の様々な国からの留学生との交流もなく、自宅で一人で留学を継続していたので、現地での生活以上に孤独で大変だと感じることも多かったです。しかし、一貫して半期の授業を履修し続けられたことで、オストラバ大学での学びを継続させることが出来た上に、授業内での自分自身の成長を感じることもできました。初めは授業中にコメントを求められることや自ら発言することに躊躇っていましたが、帰国後の授業の中でもプレゼンやその他の発表を通し、語学力だけでなく、発言力が向上したことを感じられました。千葉大学の授業と並行して留学先の最終課題に取り組んでいた時期は本当に大変だったのですが、やり遂げられたことが今となっては自信につながっていますし、本来予定していた留学とは異なるものになってしまったものの、体得したことを素直に受け入れることが出来ました。

現在もまだ以前当たり前だったような留学の再開とまではいかない状況ですが、オンラインの留学なら意味がない、留学って言えない、と思わずにこれから留学に挑戦したい人も参加して成長してもらえたらいいなと思いました。